

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
生理学 I	1年次 前期	必修	講義	1単位（30時間）	赤石 隆夫
授 業 概 要					
この授業では、看護で重要となる病態生理を理解するために必須となる常態生理について学ぶ。人が日常生活をどのような仕組みで行っているか、自らの生活と関連づけて理解することが薦められる。なお、この授業では将来の国家試験を意識したものとなる。					
到 達 目 標					
1. 体液浸透圧、体液量調節について説明できる。 2. 体液の酸塩基平衡について説明できる。 3. 呼吸の仕組みと働きについて説明できる。 4. 血液の成分と働きについて説明できる。 5. 心臓機能と電気的活動について説明できる。 6. 循環系と血管系について説明できる。 7. リンパ系、浮腫について説明できる。 8. 男女の生殖機能について説明できる。					
回	学 習 内 容				担当教員
1	「生と死」「性差」				赤石 隆夫
2	体液調節とホメオスタシス				
3	酸塩基平衡				
4	呼吸の仕組みと肺気量				
5	ガス交換とガスの運搬				
6	呼吸中枢と呼吸調節				
7	血液の働きとその成分				
8	血液型と輸血				
9	心臓の働きと調節				
10	心周期、心電図				
11	血管と循環の調節				
12	リンパ系と浮腫				
13	生体防御の仕組み				
14	生殖器系（女性）				
15	生殖器系（男性）				
学 習 方 法					
講義はパワーポイント映写、配布資料と教科書を中心に進める。解剖学 I と関連させながら学習を進めることを要する。 自学自習が学習成果において重要である。各部の名称、生理的作用は何度も繰り返して復習を行い、覚えること。学習に際しては各自の工夫と努力が必要である。					
評 価 方 法					
〔評価方法〕 科目修了試験					
先 修 科 目					
なし					
教科書、参考書					
〔教科書〕 看護 形態機能学 生活行動からみるからだ 菱沼 典子 日本看護協会出版会					
〔参考書〕 ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能(1) 解剖生理学 林正健二 編集 メディカ出版 なるほど、なっとく 解剖生理学 多久和典子、多久和陽著 南山堂					